

OS01-4 大学病院における人材育成：若手薬剤師にとっての魅力は何か

○吉川 望美¹

¹浜松医大病院薬

男女共同参画社会とは、「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会」（内閣府ホームページより）のことである。日本薬学会の「男女共同参画社会づくり宣言」（平成28年7月発信）においても同様に、性別年齢を問わず、すべての人が対等な立場で個性と能力を十分に発揮し活躍することが謳われている。これらの理念の大切さは、近年、医療機関に勤務する薬剤師や薬学研究者にも認知されてきている。浜松医大病院薬剤部（以下、当部）においても、性別年齢を問わず、すべての薬剤師が臨床業務・研究・教育に関わり、個人の意欲に応じて活躍することを目指した取り組みが行われている。6年制の影響で博士課程への進学率が全国的に減少している中で、当部では薬剤師の約3人に1人が（女性薬剤師の4人に1人）が大学院生であることが大きな特徴である。その背景には、生涯研修・学術活動の奨励やチューター制度による後進指導など、若手教育活動にすべての薬剤師が積極的に参画していることがあげられる。演者は6年制の薬学部を卒業し、当部入職5年目の若手薬剤師（兼大学院生）である。本講演では、当部の臨床業務・研究・教育指導体制の工夫や先見的な取り組みを、若手薬剤師にとっての魅力という観点から、演者の実体験と共に紹介する。